



新研究科でのさらなる飛躍を目指して

岡村 仁 医系科学研究科
副研究科長(企画担当)

この度、医歯薬保健学研究科から引き続き、医系科学研究科の副研究科長(企画担当)を拝命いたしました。

広島大学は、平成29年4月に新長期ビジョン「SPLENDOR PLAN 2017」を策定・公表しました。その中で謳われている、「新しい平和科学の理念『持続可能な発展を導く科学』を確立し、100年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たす」ために、さらなる飛躍を期待され医歯薬保健学研究科は医系科学研究科に組織再編されました。新たなプログラムも立ち上がった医系科学研究科の特色を活かした企画を教職員、学生の皆さまとともに立案し、実行していきたいと考えています。

特に、企画担当の大きな役割として、異分野融合によるInter-Professional Education (IPE) の充実と実践があげられます。一年次のIPEは本年度で4年目を迎えほぼ定着しつつあり、今後はそれをどのように発展させていくかが課題といえます。一方、高学年IPEが昨年度から開始となりましたが、こちらはまだ試行錯誤の状況です。しかし、新研究科を目指す医学、歯学、薬学、保健学が融合した医療系教育拠点の形成のためには高学年IPEの充実が不可欠ですので、先生方のご理解、ご協力、ご支援をいただきながら、しっかりとしたプログラムや体制を築いていければと思っています。

大段研究科長のもと、微力ではありますが、新研究科のさらなる発展のために引き続き尽力して参る所存ですので、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



留学生増員に向けて

吉子 裕二 医系科学研究科
副研究科長(国際担当)

本学に期待されるナショナルセンターとしての役割を果たすためには、いくつものハードルを越えなければなりません。国際化の機能拡充もその一つですが、すでに実施いただいている英語による講義や講習会、あるいは書式の英語化を始め、皆様のご尽力により、留学生の教育環境の整備等、受け入れ増員を支える仕組みが改善されてまいりました。その成果として留学生数は徐々に増加しており、医系科学研究科設置の本年度は18名を受け入れています。国別では、中国が12名と突出し、インドネシア等、アジア諸国が各1名です。プログラム別では、保健科学が12名と最も多く、前年度より倍増と大きく貢献していただきました。しかしながら、留学生の数や地域性を含め、欧米の大学あるいは国内上位大学との格差が解消されているとは言えません。新研究科では、各プログラムにおける研究の深化、またプログラム間や学際的研究推進部会などの多様な連携が加速され、革新的な研究成果が生み出されることにより、留学生の増員も期待されます。ご承知のように、日本のインバウンドは右肩上がりです。その内訳の大部分がアジア圏であることを鑑みますと、日本への留学を希望する優秀なアジアの学生の潜在数は多いと期待されます。本研究科においても、その掘り起こしは重要なミッションであり、留学生にとってより一層魅力ある教育研究環境整備が求められます。多くの優秀な留学生を積極的に受け入れるため、ますますのお力添えを賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。